

愛知県知事  
大村 秀章 様  
愛知県選挙管理委員会  
委員長 加藤 茂 様

2024年11月1日  
日本共産党愛知県委員会  
委員長 石山 淳一  
日本共産党 愛知県議団  
県議会議員 しもおく奈歩

## 有権者のプライバシーに配慮を

### 誰もが安心して投票できるようにするための要望

ジェンダー平等の社会への流れのなか、選挙においても性的少数者の人権と性の多様性への十分な配慮が求められています。

総務省は2022年、参院選で投票所入場券に記載する性別について、トランスジェンダーの方に配慮して、数字や記号などを使った表現を検討するよう各都道府県の選挙管理委員会に通知しました。自治体側ではすでに「男／女」を明記しない方式が主流になりつつあります。

愛知県からも、選挙の際の説明会では、男女を明記しないこと、男女わけの投票発券機については有権者から見えないように衝立をする、本人確認の読み上げも小声で行う、などの配慮を市町村に求めているとうかがっています。

しかし、10月27日投開票で行われた衆院選では、豊橋市民から「受付で発行された整理券に『男・女』のスタンプが押され、小選挙区・比例代表・国民審査それぞれ、投票者が男性は青ボタン、女性は赤ボタンを押して投票用紙を発行していた」と改善を求める声が寄せられました。10月6日投開票の岡崎市長選・市議選でも、「男女わけの発券機と大きい声での名前の読み上げがあった」との声があり、トランスジェンダー当事者の方が不安になった、と聞いています。

県下では、「投票発券機は囲いで隠している」「名前確認は小声を心掛けている」ところもあります。このように市町村によって対応が分かれており、性的少数者の人権と性の多様性への配慮はいまだ十分ではありません。

今後の選挙で、県民の誰もが安心して投票に行けるように改善が必要です。そこで、以下要望します。

#### 記

1. 各市町村の投票所で性別記載についてどのように対応しているか、調査し実態を把握すること。配慮に欠ける対応には、助言を行い、改善を求めること。
2. 投票所入場券への男女の明記をしない(記号や数字で対応を)・男女別の投票発券機は有権者から見えないようにする・名前の読み上げはやめる(又は小声を徹底する)・これらのことをあらためて市町村へ文書で通知し徹底すること。